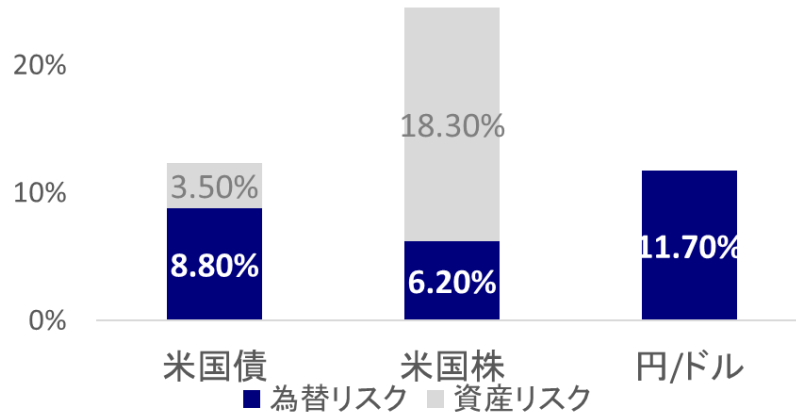


ATTENTION

米国株投資で、為替リスクは怖くない！

米国債と米国株の為替リスク(年次)



米国債：パークレーズ米国総合(分配金込み、ドルベース)、米国株S&P500(分配金込み、ドルベース) 1996年1月～2015年12月

いまのように円安が進むと、思わぬ為替益が出ますが、必ずしもそういうときばかりではありません。2011年秋には1ドル75円台まで円高が進み、リーマンショックのあと株価も安く、青息吐息だったことを思い出します。外国株投資は為替リスクが絡むと、踏み切れない人も多いでしょう。まして24年ぶりの135円台となると、いま始めていいのか思う人もいるでしょう。しかし外国株に投資する場合、為替リスクは思っているほど怖いものではないということをご覧に入れましょう。上のグラフは、円からドルにして米国株、米国債に投資していた場合とドルそのものを持っていた場合の、20年の年次の為替リスクを見たものです。ドルのままで持っていた場合の為替リスクは11.7%ですが、米国株に円で投資したときの為替リスクは、ほぼ半分(6.2%)に減ります。一方、米国債に投資していると、為替リスクは8.8%に減りますが、その減り方は米国株の方が大きいです。それは、貨幣の価値を下げるインフレによって、通貨安を招くことが多いのですが、インフレになると企業は値上げで対抗し、よい商品やサービスを提供して付加価値を上げ、さらに利益を出すように努めます。そして株価は上がる。要は為替と株価は同じ動きをしない、時には逆の動きをするので、結果として為替リスクは減るというわけです。数十年に渡れば、為替リスクはなくなるという説もあります。債券は、企業努力が反映しないので、為替リスクの減り方が弱いのです。為替リスクをこのように見ると、米国株投資への取り組み方もずいぶん変わるでしょう。

COLUMN

目的をもって齢を取る

人生100年、後半期をいかに過ごすか、気持ちの持ち方、過ごし方、心構えが大事になってきます。いくつか要諦を上げてみましょう。

なりたい人に誰でもなれる

齢を取ることは後退という考えは捨てましょう。まだ活躍できる、伸びる、社会の役に立つという気持ちをもって、目的を持つことです。

齢を取ることの既存概念を気にせず、もっとも実りある時期と捉える

自分の価値が最も活きる時期と捉えるべきなのです。せっせと収穫する時期、社会に還元できる時期と意識づけて過ごすのです。

これまでを振り返り、これからを見据え、生きる目的を定める

自分が社会に貢献できることは何か、どう役に立てるか、どうしたら意欲を掻き立てることができるか考えることで活力が湧いてきます。

いつも向上心をもって、社会に還すことを心がける

生きる目的とは、自ら成長し、社会に還すことです。

時間を大切に、意味のあるものに、充足感のあるものに使う

自然に触れ、ボランティアに勤しみ、瞑想に励むなど、お金に代えられないものを大切にするのです。

齢を取ることは、選択の自由が広がること

住む場所を変える、好きなことをする、趣味に没頭する、新しいことを始める、自分がやりたいことが、何でもできるようになるのです。

気持ち次第で、大きく変わる

好奇心や期待感をもって過ごすようにすれば、周りによい影響を与え、自分も進歩します。よく聴き、よく学び、よく愛でる。人生の後半期、目的をもって齢を取ることは、豊かな時を過ごすことにつながります。

MARKET

(6月末)

(5月末比)

日経平均

26,393.04円 → -886.76円
(-3.25%)

NYダウ

30,775.43ドル → -2,214.69ドル
(-6.71%)

米ドル

135.80円 → +7.05円
(+5.48%)

私の書棚より

あなたの信念は思想になり
あなたの思想は言葉になり
あなたの言葉は行いになり
あなたの行いは習慣になり
あなたの習慣は価値になり
あなたの価値は運命になる。
-マハトマ・ガンジー

なぜアメリカは世界最強なのか

このところ、世界でアメリカの力が際立っています。なぜここまで強いのか。投資をするうえでも大変大事なポイントですので、じっくり掘り下げてみましょう。

アメリカ国歌の由来を知っていますか。非常に心を揺さぶる歌ですが、この歌詞は、1812年に勃発した米英戦争で、夜通しの英国軍の激しい攻撃に耐え、砦に掲げた星条旗を守り通した史実がもとになっています。米国人の闘争心、反骨心、愛国心の原点が伺えます。

独立精神、反骨心、愛国心が宿る

米国は移民してきた人々が、英国との戦争に勝つてできた国なので、もともと国を見る目が違うということがあげられます。また南北戦争という凄惨な内戦を経験し、その深い痛みも教訓としてDNAに刻まれているのでしょう。

闘争精神とレジリエンス(反発力)がある

独立戦争が国の始まりですから、その闘争精神は身体にしみ込んでいて「決して負けない」となり、反発力となってきます。リーマンショックも「なにくそ魂」で克服しました。このような強い精神力が、中国に対しても情け容赦ない制裁となります。中国は、米国がここまで厳しく当たってくるとは予想もしていなかったでしょう。

人種のるつぼが、プラスに働く

米国は、奴隷制度、国づくりでのアジア人労働力、不法移民を含む中南米の移民、インドなどITの高い技術を持つ人材など、いわば外からの労働力で成り立っている人種のるつぼ。そうすると、いわばカオスの世界で、摩擦も当然おきますが、それが却って触媒として作用して、

一旗揚げようとする意欲が強く、次から次に新しいベンチャーや革新的な企業が生まれてくるのです。

悪いことをすれば情け容赦ない

企業でも悪いことをすれば情け容赦なく、巨額の罰金(数百億～数兆円)を課し、NASDAQ会長を務めたマードフの巨額詐欺のような不正では、罪を積み上げて懲役150年の刑を科すというように、制裁は非常に厳しいものがあります。不正をしようとするという見せしめ効果を狙ったものでもあるのです。制裁が甘い日本と比べ、その差は、大変大きいものがあります。

「やってみる」精神がある

ナイキのスローガンに「Just do it!」という言葉があります。アメリカの場合、発想が非常に柔軟、自由で、独創的、革新的なアイデアが生まれる土壌があるといつてよいでしょう。いわば「規制があるからダメ、無理、前例がない」から入らないということです。

慈愛、還元精神がある

ロックフェラー、カーネギーに始まり、現代のパフェット、ゲイツに至るまで、米国の大富豪は、その財産を慈善事業や財団に寄付することを当然の義務としています。有力大学、美術館、博物館は、寄付で成り立っているといて過言ではありません。そのようなお金は、善意のソフトマネーとして、人々の気持ちも豊かにするのです。

また財政規律があり、官と民の馴れ合いがなく、社会や経済が柔構造で、大変効率的に機能するようになっている点も見逃せないところです。

まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に売っていただくのではなく、お客様にもっとも適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観のもと、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス
代表 尾藤 峰男
公認投資助言者(RIA)

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス

代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386

携帯：070-5567-3311

電子メール：info@bfsc.jp